

令和4年度 第2回静岡市食育推進会議

1 日時：令和5年2月9日（木） 午後7時～午後8時30分

2 会場：静岡市役所 新館低層棟3階 茶木魚

3 出席者(名簿順・敬称略)

ZOOM 出席者

市民委員		梅木 幹子
静岡県立大学 食品栄養科学部	教授	桑野 稔子
静岡市校長会	由比小学校長	清 俊之
関東農政局 消費・安全部	消費生活課長	小林 寛之
市民委員		山田 瑞己
一般社団法人 静岡市静岡医師会	理事	依藤 崇志
静岡市 食生活改善推進協議会	会長	渡邊 良子

会場出席者

静岡市公立こども園園長会	蒲原東部こども園長	新貝 慶子
しずおか市消費者協会	副会長	鈴木 たずこ
公益社団法人 静岡県栄養士会	名誉会員	坪井 厚

事務局(全員現地会場出席者)

保健福祉長寿局 健康福祉部 健康づくり推進課	課長	宮崎 良樹
保健福祉長寿局 健康福祉部 健康づくり推進課	係長	大勝 祥偉
保健福祉長寿局 健康福祉部 健康づくり推進課	主任保健師	植原 昌紀子
保健福祉長寿局 健康福祉部 健康づくり推進課	主任栄養士	望月 有加
保健福祉長寿局 健康福祉部 健康づくり推進課	主任主事	安藤 一輝
保健福祉長寿局 健康福祉部 健康づくり推進課	会計年度任用職員	菊地 翔

4 内容

- (1) 第3次静岡市食育推進計画の最終評価及び次期計画策定に係る市民アンケート調査結果報告について
- (2) 静岡市の食に関する主な課題と第4次静岡市食育推進計画の方向性(案)について

て

- (3) 第4次静岡市食育推進計画策定スケジュール(案)について
- (4) 農林水産省関東農政局“みどりの食料システム戦略”について
- (5) しずおかカラダに eat75 事業について

(1) 第3次静岡市食育推進計画の最終評価及び次期計画策定に係る市民アンケート調査結果報告について

事務局

今年度7月に現計画の最終評価次期計画策定にかかる基礎資料として、アンケート調査を行いましたのでご報告させていただきます。

使用する資料につきましては、令和4年度健康・食育に関する意識・生活・アンケート調査報告書、資料1“第3次静岡市食育推進計画目標数値別の結果”、資料2“新型コロナウイルス感染拡大に伴う食生活の変化”、第3次静岡市食育推進計画概要版、こちらの4点をご用意ください。

「資料1」をもとに、説明させていただきますが、こちらは主に報告書から、目標に関するグラフを、一部抜粋した資料となっております。

報告書169ページ以降が食育の部分になります。現計画の概要版も合わせて、ご確認いただけたらと思います。

また、今回の評価については、A～D評価としております。「評価の基準」については、報告書p219にも掲載してあります。

目標に達成したものはA評価、目標は達成していないが、改善傾向にあるものはB評価、変わらないものはC評価、悪化しているものはD評価と評価をしています。

現計画の目標は16ありますが、まずは、目標1～8について説明をさせていただきます。

目標数値(1)食育に関心を持つ若い世代(20～30歳代)の割合

それでは、資料1の2、3ページをご覧ください。

平成28年度の第3次計画策定時は、78.7%でしたが、今回は58.7%と目標値85%以上に達することができなかったため、D評価となっております。

また、食への関心について、性別にみますと、男性より女性で食への関心が高く、また、比較的、20歳代以降の子育て世代などで高い傾向がみられました。

食育というと「子ども」を対象と捉えている方が多いのか、70歳以上になると食育への関心が他の年代に比べ、低くなっています。

では、3ページの第3次計画の主な取り組み事業をご覧ください。現計画掲載事業は、99事業ありますが、目標1に、主に関係する事業は7事業あります。

◎で印をしてあるものは「重点事業」であり、目標数値を達成する上で最も影響がある事

業となっています。

また、その下のグラフになりますが、「食育への関心度」として、「食育」という言葉に関する4つのアンケート調査項目の割合を、全年代で比べてみました。

どの年代においても「食育という言葉を知っている、文字を見たことがある」の割合が一番高く、次いで「食育の意味を知っている」の割合が高い傾向にありました。「食育」という言葉の認識はありますが、食育に関心を持ち、食に関する情報を得るために行動するまでに至っていないという結果となりました。

今回、「目標1」についてはD評価となりましたが、若い世代が食育への関心を高め、食を通じた豊かな生活の実現、次世代への食文化や食に関する知識・経験を伝えていくなど、健全な食生活を実践することができるように、今後も若い世代への周知、啓発を継続していく予定です。

また「目標1」は若い世代を対象としておりますが、全世代の「食育に関心がある割合」についても平成28年度調査と比べ、減少しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、外食の機会や食に関するイベント等の中止・縮小が相次ぎ、食を楽しむ時間が制限されることも多くあったと思われます。

国の第4次食育推進基本計画でも重点事項としております「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進として民間事業者等と連携し、市民が食を楽しむ機会が増えるような取組などを検討していく必要があります。

目標数値(2)朝食を欠食する若い世代(20～30歳代)の割合

続きまして、4、5ページをご覧ください。

平成28年度の策定時は、20歳代で43.4%、30歳代で29.7%でしたが、今回は20歳代で29.9%、30歳代で22.3%と目標数値をそれぞれ達成しましたので、A評価となっています。

しかしながら、4ページの下側のグラフをご覧くださいと、特に20歳代の「朝食を欠食する」割合は他の年代と比べて高い傾向にあります。

5ページの下側のグラフ「朝食の摂取状況」をご覧ください。こちらは、4ページのグラフをもう少し詳しく表したもので、性年代別の朝食の摂取状況となります。20歳代女性の朝食欠食状況が一番高くなっています。

男性ですと20、40、50歳代で高い傾向があり、40歳代男性においては「ほとんど食べない」割合が20%を超えていました。

それではここで、グラフの右側、現状・課題の下部分をご覧ください。朝食を「ほとんど食べない」と回答した人が「朝食を摂取しない理由」について選択した内容ですが、「以前から食べる習慣がない」、「食べる時間がない」、「食欲がない」の3つが上位となっています。

朝食欠食の課題としては、朝食を食べる必要性に加え、空腹の状態朝を迎えること、また、短時間で食べることができる朝食のパターンやレシピなどを若い世代が知ることだと考えます。

規則正しい生活リズムを身につけ、実践しやすい食環境づくりが整うような取組につい

て、今後も検討していけたらと思います。

目標数値(3) 情報を得るために行動をする若い世代(20～30 歳代)の割合

続きまして、6、7ページをご覧ください。

平成28年度の策定時では調査を実施していませんでしたので、評価はしていませんが、今回の調査では46.3%と目標数値80%以上に達しませんでした。6ページの下グラフをご覧ください。

「食」に限定した情報の取得ということですが、一番上の、全体のところをご覧くださいますと、市民の51.7%の方が「情報を得ていない」と回答されました。

特に、若い世代においては、スマートフォンやタブレットなどをもち、多くの情報を手に入れることができると考えられますが、「食」以外の情報の優先順位が高くなっていると思われる。

「食」だけの情報発信では今後も受け取る側が限られてしまいますので、若い世代が興味をもつ情報の取得から、自然と食に触れる機会につながるような情報発信ができないか、民間事業者等と連携をしながら検討していきたいと思えます。

目標数値(4) 女性(20 歳代)のやせ(低体重)の割合

続きまして、8、9ページをご覧ください

平成28年度の策定時は、30.4%でしたが、今回は24.1%で目標数値の20%以下には達しませんでした。しかし、改善傾向にありますので、B評価となっています。

20歳代の女性のやせについては、改善傾向が見られましたが、8ページの下グラフから他の年代についても「やせ」の割合が高い傾向がみられます。

資料1の9ページのグラフをご覧ください。男性は中学生から大学等の学生にかけて、女性は小学校高学年から中学生にかけて、「やせ」の割合が高くなっています。

成長期との関連性もあるかとは思いますが、「やせ」については低年齢化していることも考えられるため、今後、小・中学校と連携し、学校でのデータとの整合性を図りながら、栄養教諭等による食の指導を中心に周知していくことが、今後も重要となります。

また反対に、男性の青年期以降の「肥満」の割合が急に増えてくることも分かりました。進学、就職等による生活スタイルの変化による食生活の乱れ等が考えられ、新社会人などのタイミングで食の指導が必要であると思えます。

目標数値(5) 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代(20～30 歳代)

続きまして、10、11ページをご覧ください。

平成28年度の策定時の数値は、国の第3次食育推進基本計画の数値を利用していたため、43.2%でした。

令和4年度調査は市で実施したアンケート結果の数値となりますが、お手元の資料をご

覧いただきますと、58.3%となっております。

この数値については、集計に間違いがありましたので、大変申し訳ありませんが、ここで、訂正をさせていただきます。正しくは、34.9%でした。お手数ですが、お手元の資料の訂正をお願い致します。

よって、目標値の55%以上に達しなかったことから、D評価と評価をしました。

それでは、10 ページの下のグラフをご覧ください。

普段から食べているもののアンケート結果から、朝食と昼食、11 ページの上のグラフには夕食について若い世代の調査結果を抜粋してあります。

三食を比べますと、朝食で明らかに、「主食」「主菜」「副菜」が揃わない傾向にあります。若い世代では、特に副菜が20%前後しか食べていない結果となっているため、具沢山の汁物の提案や、「主菜」＋「副菜」が一度に食べることができるレシピなど、自分で用意しやすい朝食のパターンなどについて知り、若い世代の実践につなげていくことが、引き続き課題となっています。

11 ページの下のグラフをご覧ください。こちらは、間食の摂取状況について性年代別で作成したグラフとなります。間食を「ほぼ毎日とる」割合は、全ての年代において女性で高い傾向があり、一番割合が高かったのは、20 歳代女性でした。三食においては、昼食時にお菓子をとる割合が高い傾向があります。

また、現状、課題等にもかかせていただきましたが、男女とも20 歳代において「栄養バランスに気をつけている」割合が他の年代と比べて低いため、間食の摂取とあわせて、栄養バランスの重要性についても、引き続き、情報発信していきたいと思っております。

目標数値(6)主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合

続きまして、12、13 ページをご覧ください。

平成28年度の策定時の数値は、国の第3次食育推進基本計画の数値で57.7%でした。

今回、令和4年度調査では市で実施したアンケート結果の数値となりますが、こちらについても訂正があります。お手元の資料には51.0%となっておりますが、正しくは、49.3%でした。大変申し訳ありません。

お手数ですが、お手元の資料の訂正をお願い致します。こちら、目標数値の70%以上に達しませんでしたので、D評価と評価をしています。

12 ページのグラフをご覧ください。普段から食べているものの、朝食と昼食。13 ページには夕食の全世代の結果について抜粋してあります。

若い世代と同様に、12 ページの朝食で明らかに、「主食」「主菜」「副菜」が揃わない傾向にあり、また、主食と比べ、主菜や副菜の食べる割合が低いです。

一方で13 ページの夕食になりますと、主食を食べる割合より、主菜、副菜を食べる割合が増えます。

特に70 歳代以上では主食を69.2%しか食べないという結果であり、低栄養の問題等が考えられます。

ちなみに、平成28年度の夕食で主食をとる70 歳以上の調査結果は94.0%でした。

栄養バランスに配慮した食生活の周知については、食事の場面、年代などを十分考慮して行うことが引き続き必要であると思います。

また、コンビニや飲食店などでの栄養バランスのとれたメニュー等の促進を図るなど、市全体で食環境作りの取組を進めることが今後の課題となってきます。

目標数値(7)生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民(中学生～84歳)の割合

続きまして、14、15ページをご覧ください。

平成28年度の策定時は、60.6%でしたが、今回は66.1%と目標値65%以上を達成しましたので、A評価となっています。

14ページのグラフをご覧ください。性別にみると、「食事に気をつけている」割合は男性より女性で高くなっています。「運動に気をつけている」割合はやや男性の方が高いようです。年代別にみると、20歳代においては、生活習慣病予防・改善のために「何もしていない」が51.5%であり、若い世代に向けた効果的な発信方法については、今後も、検討が必要となります。

若い世代がコンビニなどで購入するときに、バランスの良い食事について、具体的なイメージが浮かぶような取組など、生活習慣病につながる課題の改善に向けた事業を増やしていけたらと思います。

目標数値(8)食品の安全性について基礎的知識を持つ市民(中学生～84歳)の割合

続きまして、16、17ページをご覧ください。

平成28年度の策定時は、65.8%でしたが、今回は63.9%と目標値70%以上に届かず、策定時と±5%以内の変化でしたので、C評価となっています。

16ページのグラフをご覧ください。性別にみると、女性の方が「あると思う」と回答した割合が高くなっており、経験による知識の差もでてくるのか、年代が上がるほど高くなる傾向があります。働き方、暮らし方の変化により、自宅での料理や、食事をしたりすることが増えたことで、必然的に“食材を買う機会”も増えています。

健全な食生活の実現のために、今後も広く周知していくことが必要であります。

以上で、簡単ではございますが、目標数値1～8までのご報告となりました。

ご意見を伺う前に、目標5、6の調査結果の数値の訂正をしていただきましたので、資料1の一番後ろに添付している参考資料の訂正もあわせてお願い致します。

資料1の一番後ろにあるA3の用紙になりますが、オレンジの列、R4調査結果のR4数値、目標番号5となりますが、58.3%を34.9%、評価はAをD。また目標番号6のR4数値は、51.0%を49.3%に訂正をお願いいたします。

お手数をおかけして、申し訳ありません。

訂正ありがとうございました。以上で説明を終わります。

質問 目標数値 1～8

議長

それでは、ただいまの説明につきまして、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いいたします。

オンラインで参加の皆様は、挙手をお願いします。現地でご参加の皆様はその場でご発言してください。

ご発言の前にはご自身のお名前をお願いします。

梅木委員

膨大なアンケート資料の集計お疲れさまでした。

興味深かったのは、痩せの年代が低年齢化していることに危機感を感じました。具体的な対策はないのですが、その部分は驚きました。

依藤委員

痩せのことにしましては、前回、私も発言させていただき、健康づくり推進課の望月さんからもメールをいただき、今、若い人にもわかりやすいような漫画を作っているということだったので、そういうことが改善に繋がればよいと思います。

もう一つは、高齢者の食に関する関心が薄いと伺いました。人生 100 年時代に向かっていますが、寝たきりで、チューブ栄養で流れていても意味が無いので、いかに、健康でおいしい食事を食べられるかがテーマだと思います。

その中で、スマートミールの利用。中食と外食と家で食べる内食があるのですが、今、お惣菜を外で買って家で食べる、中食がどんどん広まっています。中食で健康に配慮したスマートミールを食べていければ、健康にも寄与します。

高齢のかたに関しては、自分で作るよりも中食がこれから増えると思います。人によって食育のタクティクスは変わってくると思いますので、高齢者に関してはスマートミールをもっと活用することで、食育の関心を増やせると思いました。

議長

続きまして、目標 9 から 16 について、また新型コロナウイルス感染拡大に伴う食生活の変化について、事務局から説明をお願いします

目標数値(9) ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民(中学生～84 歳)の割合

事務局

続きまして、18、19 ページをご覧ください。

平成 28 年度の策定時は、38.6%でしたが、今回は 39.9%と目標値 45%以上に届かず、策定時と±5%以内の変化でしたので、C評価となっています。

18 ページのグラフをご覧ください。性別にみると、女性の方が「食べ方に関心がある」割合が高くなっています。70 歳以上で「いつも」の割合が他の年代と比べて高い傾向にあります。

次に、19 ページの性年代別グラフにおいて、もう少し詳しくみると、40、60 歳代の男性が「よく噛んで味わって食べる」割合が、他の年代と比べて低い傾向があります。

「味わう」という行為は、しっかり噛み、ゆっくり食べることで感じられるともいわれ、健康寿命の延伸にもつながります。

年代に応じた「食べ方」の支援をしていくことが、引き続き必要だと思います。

目標数値(10) 定期的に歯科健診を受診している市民(中学生～84 歳)の割合

続きまして、20、21 ページをご覧ください。

平成 28 年度の策定時は、52.8%でしたが、今回は 57.5%と目標値 60%以上に届きませんでした。改善傾向がみられましたので、B評価となっています。

20 ページのグラフをご覧ください。男性の大学等から中年期、女性の大学等から青年期で受診している割合が半数を下回りますので、学生や働き世代などに向けて効果的な発信方法を検討していきます。

目標数値(11) 毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民(中学生～84 歳)の割合

続きまして、22、23 ページをご覧ください。

平成 28 年度の策定時は、81.0%でしたが、今回は 66.8%と目標値 85%以上に届きませんでしたので、D評価となっています。

22 ページのグラフをご覧ください。「朝食」での共食形態についてです。年代別にみると、20 歳代で「一人で食べる」割合が 50.1%、50 歳代で 45.9%と、他の年代と比べて高くなっています。また、23 ページのグラフをご覧くださいと、こちらは性年代別の毎日 1 回

以上、共食をする割合となります。やはり 20 歳代で「共食しない」割合が高くなっています。

新型コロナウイルスの影響もあり、「共食」を積極的に推進することは困難な状況ではありますが、どの年代においても「共食」がとても重要であるということについては発信を続けていきます。

「新しい生活様式」の一つである、オンラインなどの活用についても取り入れていくなど、長期化するコロナ禍において「食事を楽しむ機会」を少しでも増やしていけるような取組を検討していけたらと思います。

目標数値(12)食品ロス削減のために行動している市民(中学生～84歳)の割合

続きまして、24、25 ページをご覧ください。

平成 28 年度の策定時は、50.3%でしたが、今回は 61.2%と目標値 55%以上に達しましたので、A評価となっています。

24 ページのグラフをご覧ください。性別にみると、女性の方が「行動している」割合が高くなっています。50 歳代、60 歳代で「行動している」割合が他の年代と比べて高い傾向にあります。25 ページのグラフをご覧ください。

今回のアンケートで、食品ロス削減のために取り組んでいること、または、これから行動したいこととして、「買い過ぎない」「無駄な食品を買わない」「使う分だけの量を買う」を回答した人は約半数でした。買い物の機会に行動をしている、またはしたいと思っている人が多いことが分かりました。

食生活の中で「もったいない」という意識をもつ市民を、今後も増やしていけるように、関係課や関係団体等と連携しながら、引き続き、発信していけたらと思います。

目標数値(13)地元(静岡市)で生産された物を日頃から購入するようにしている市民(18歳以上)の割合

続きまして、26、27 ページをご覧ください。

静岡市の農業政策課で調査をしている「静岡市産農産物に関するアンケート調査」から数値をいただいております。よって、今回の報告書では評価達成状況一覧表に掲載しておりません。

平成 28 年度の策定時は 23.6%でしたが、今回は 21.0%と目標値 30%以上に達しませんでしたので、D評価となっています。

26 ページのグラフをご覧ください。農業政策課にいただいたデータとなります。平成 28 年度から毎年調査をしていますが、ほぼ横ばいで、推移しているようです。

「いちご」を市内産農産物と意識して購入している割合が最も高く、「野菜全般」については、あまり市内産にこだわって購入する方が少ないようです。

地元の食材を使用したレシピを知ることや、今まで知らなかった地元の食材を知ることなど、今後も広く周知していくことと、生産者と消費者との交流の機会をもつために、関係機関などと連携していくことが課題となります。

また、国の第4次食育推進基本計画においては、新しく、環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民を増やすが目標として入りました。

食料の生産から消費に至る食の循環において、温室効果ガスの排出などの環境に負荷が生じることを減らしていく行動も、今後必要となってきます。

27 ページのグラフをご覧ください。今回の調査結果を性年代別で作成したグラフとなります。「いつも選んでいる」「時々選んでいる」割合は44.7%でした。国の計画において令和7年度の目標値は75%以上ということですので、環境を配慮した食品を選ぶ市民が増えていくような取組を、今後検討していきたいと思えます。

目標数値(14) 農林漁業体験をしたことがある市民(中学生～84歳)の割合

続きまして、28、29 ページをご覧ください。

平成28年度の策定時は、34.3%でしたが、今回は31.9%と目標値40%以上に達しませんでしたので、D評価となっています。

28 ページのグラフをご覧ください。性別にみると、男性の方が「体験をしている」割合がやや高くなっています。

食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、生産者の様々な活動に支えられていることの理解を深めるためにも、農林漁業体験は非常に重要です。

また体験は「情報を得ること」に勝る効果もあると考えられます。体験機会や体験方法に関する情報を提供するにあたり、ターゲットを絞った広報やデジタル媒体を活用した効果的な方法が、今後必要となります。

目標数値(15) 地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民(中学生～84歳)の割合

続きまして、30、31 ページをご覧ください。

平成28年度の策定時は、28.4%でしたが、今回は28.2%と目標値35%以上に届かず、策定時と±5%以内の変化でしたので、C評価となっています。

30 ページのグラフをご覧ください。性別にみると、女性の方が「継承している」割合が高いです。

近年、核家族化の進展、また、地域社会のつながりが薄くなっていることなどから、地域の郷土料理や伝統料理の食文化に触れる機会も少なくなっています。

特に家庭での継承が難しくなっていますので、学校給食やこども園等の給食における行事食の提供や地域のイベントなどを利用して、理解や関心を高めていくことが課題となります。

目標数値(16) 茶葉から入れた緑茶を飲む市民(中学生～84歳)の割合

続きまして、32、33 ページをご覧ください。

平成28年度の策定時は、53.3%でしたが、今回は40.8%と目標値60%以上に達しませ

んでしたので、D評価となっています。

32 ページのグラフをご覧ください。性年代別にみると、年代があがるにつれて、茶葉から入れた緑茶を飲む割合が高くなっています。

また、33 ページのグラフをご覧ください。こちらは、平成 28 年度調査と比較をしたグラフとなります。やはり年代があがるにつれて、茶葉から入れた緑茶を飲む割合が高くなる傾向にありますが、平成 28 年度調査では「いつも飲んでいる」50 歳代の割合は 63.6%に対し、令和 4 年度調査では 36.3%と大幅に減った結果となりました。

このままいくと、次の調査においては 60 歳代の「いつも飲んでいる」割合が減少する傾向も予想されますので、関係課と連携し、若い世代を中心に、40～50 歳代の年代に対して周知していくことが課題となります。

また、茶葉から入れた緑茶を飲む習慣をつけるためには、取組みやすい粉茶やティーバックなどのお茶から親しむなど、各年代の生活スタイルに合わせた緑茶の飲用についても検討をしていきたいと思えます。

簡単ではありますが、目標 16 までの説明をさせていただきました。

続きまして、資料 2、新型コロナウイルス感染拡大に伴う食生活の変化について、一部分だけ説明します

新型コロナウイルス感染拡大に伴う食生活の変化

資料 2 の 1 ページをご覧ください。こちらは、コロナ前とアンケート調査時の食生活の変化を項目別に、比較したものとなります。今回は特に食に関する項目をまとめました。

全世代の変化については、ほとんど「変わらない」の割合が多い傾向にありますが、⑪外食の頻度、⑬友人・知人・同僚と一緒に食事をする頻度 については、やはり「減った」と回答された割合が高くなっています。

また、⑧加工食品の利用頻度、⑨自宅で料理をする頻度、⑩調理済み食品や出前の利用頻度、⑭体重については、「増えた」と回答した方が他の項目と比べ、やや高い傾向にあります。

今後も続くと思われるコロナの影響ですが、食育全体においても取組ができにくい状況が続いております。

今後もこのような変化を考慮した取組を検討していきたいと思えます。

以上で、現計画の目標数値別の結果について、ご報告させていただきました。

質問 目標数値9～16 新型コロナウイルス感染拡大に伴う食生活の変化

議長

ただいまの説明につきまして、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いいたします。

意見無し

議長

次に、議事(2)静岡市の食に関する主な課題と第4次静岡市食育推進計画の方向性(案)について、事務局から説明をお願いします。

(2) 静岡市の食に関する主な課題と第4次静岡市食育推進計画の方向性(案)

事務局

それでは、資料3をご覧ください。今回の市民アンケート調査の結果について、上部にまとめてみました。この資料についても訂正をお願いします。

まず、左側円グラフの割合についてですが、アンケート集計結果の訂正により、A評価がD評価となりましたことから、Aの目標値数は5から4、割合は、29.4%から23.5%と訂正をお願いします。

また、Dの目標値数は6から7、割合は35.3%から41.2%となります。同じように、右側のA～Dの目標値についても、訂正をお願いします。目標に達成した目標値(A)に記載されています、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合」については、悪化している目標値(D)としてください。

お手数をおかけして申し訳ありませんが、訂正をお願い致します。

それでは、市民のアンケート結果から、市民の皆様の食を取り巻く状況についてまとめてみましたので、下の部分の左側、緑色の部分をご覧ください。

目標1～16までの評価の説明と重なる部分となりますので、ここでは赤い太字の項目のみ、読み上げさせていただきます。

食育に関心をもつ市民の減少。年代の変化に伴うやせ、肥満の割合の増加。主食、主菜、副菜を組み合わせた食事をする市民の減少。間食の摂食率の増加。共食の減少。市内産のものを購入する市民の減少。農林漁業体験の減少。茶葉から入れた緑茶を飲む市民の減少。

以上の状況を踏まえ、静岡市の食に関する主な課題、また、国の第4次食育推進基本計画で重点事項としてあげられている項目も含めて、第4次静岡市食育推進計画の方向性として、案を作成してみました。一番右側の部分となります。

全世代に対応した食育の推進に向けて、ということで、4つ基本方針案をあげています。

1つめは、若い世代を中心とした食育の推進で、基本方針の土台として考えているところです。若い世代が食を楽しみ、食の大切さを実感し、次の世代へ伝えていくことができるように、取り組んでいきたいと考えています。

まずは、若い世代の生活習慣づくりということで、早寝早起き、朝ごはんや、こども園・幼稚園、小・中学校での栄養教諭・栄養士による食に関する指導の継続、また、食に関心をもつ機会として、食育教室や食の体験を深めるイベントなど若い世代が参加できる取組を通し、食べる力、生きる力を育んでいきたいと思っています。

2つめは、健康長寿世界一につながる食育の推進です。市民一人一人が生涯にわたって生き生きと過ごせるように、自然に健康に、食をおいしく楽しむことができる食環境づくりを目指します。

食環境整備をするためには、情報発信だけではなく、市民の皆様が健康的な食事の選択ができることも、あわせて取り組んでいかなければならないと考えております。

新型コロナウイルス感染症の影響などにより、中食などの利用が増えていることなども考慮し、食を提供する側の栄養バランスの知識習得に向けた講座を、令和5年度に新しく開設する予定です。

民間事業者のノウハウを活かし、継続してできる取組ができればと思います。また、健康食というと、薄味、おいしくないというイメージを持つ方もいるかと思いますが、同じメニューにおいても野菜の量を少しだけ増やしてみる、また減塩については、10%ほどの減塩を目標にしたり、あえて減塩したことを知らせない手法で提供をするなど、自然と健康に、またおいしい食の提供を目指していきたいと思っています。

3つめは、「わ」(和・輪・環)の食育の推進です。持続可能な食に必要な、和食文化の和、人の輪、環境の環の3つの「わ」を支える食育を推進していきます。

静岡市で受け継がれる郷土食や行事食については、家庭では継承が難しくなっているため、地域で活躍してくださっている食育ボランティアさんたちと連携して伝えていきたいと思っています。

また、農林漁業体験等を通し、食べ物を大切に作る心を育む機会を増やし、次世代へつなげていけるように推進していきたいと思っています。

また家族や友人などと、共に食事をとりながら、コミュニケーションを図る共食は、規則正しい食生活、健康的な食生活とも関係していると言われます。

感染症予防も考慮しながら、情報発信については継続し、共食の機会の提供についても行っていけたらと思います。

環境に配慮した食生活については、食品ロス削減、産地や生産者を意識して食品を選ぶ。例えば、地元のものや被災地などの産品を選ぶなど、食べ物に関心を持ち、市民の皆様への健全な食生活にもつながるように推進していきます。

4つめは、「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進です。SNSなどデジタル技術を活用した食育の推進をしていきます。

食育に関する啓発の内容や実施方法の工夫をしたり、若い世代にターゲットを絞ったデ

デジタル媒体や SNS 等を活用していきたいと思います。担当者がこのような取り組みにまだ追いついていないところがありますので、民間事業者等と連携しながら、推進していけたらと考えております。

また、災害時に備えた食育の推進として、各家庭において食品備蓄ができるよう普段の食品を少し多めに買い置きしたり、消費した分を補充する「ローリングストック法」について、広く情報発信できるようにしていきます。

以上が方向性（案）とさせていただきます、これに基づき計画の枠組みとなる骨子案を作成していきたいと考えております。

資料3の説明は以上となります。

質問(2) 静岡市の食に関する主な課題と第4次静岡市食育推進計画の方向性(案)

議長

それでは、ただいまの説明につきまして、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いいたします。

坪井委員

3次計画までやってきた結果、コロナが途中で入り、思いもつかないことが沢山起こり、D評価が多くなっています。私もこの世界に長く、理想的な食生活をする人は、一部の方に限られます。特に若い人は健康的な食生活よりも、おいしさ、流行りのものにお金を費やすことが続いています。

そのような中、テレビ、マスコミを通して、大きく国民に影響を与えたものがあります。例えば、コレステロールです。未だに、卵を食べるとコレステロールが増える、油はいけないという70代、80代くらいの方がいます。

マスコミ、テレビを通して、人の心の中に根強く残るものがすごく多いと考えると、そういうものを活用して、国民の間に理想的な食生活を示すとよいです。

そこで、細かいことをいうのではなく、朝食はとるだけでよい、主食・主菜・副菜がよいなど、その裏づけが、日本が短年で健康長寿の国を作り上げたところにあると思います。この食文化を若い世代から無くすというのは絶対にいけないと思います。

日本から世界に発信し、メディア、企業を巻き込み、いいアイディアを出すのが、日本人の役割と思います。

地方の静岡から新しい試みで、そういうものを発信出来たら素晴らしいと思いますが、具体的な目標を立てて達成しようとするのは難しいと感じています。

渡邊委員

静岡市の食に関する主な課題でも、生活習慣病を取り上げていますが、生活習慣病の原因

究明は必須だと思います。静岡市は塩分の摂取がとても多いので、カリウムが排出される野菜摂取の取り組みが必要です。

先週、イベントで簡単に推定野菜摂取量が見える化できる、“ベジチェック”という測定器を使ってみました。そうしましたら、来場者は野菜が取れているか気になるようで、大変興味を持っていただきました。

検査することで数値が低い方は、意識して摂取しなくてはいけないと感じ、数値が良かった方は継続して摂取できると思いますので、数値で摂取量が判断できるのはとても良いことだと思います。検査ができる機会が多くあると、野菜摂取量が増えるのではないかと思います。ぜひ静岡市でも導入について考えていただきたいです。

山田委員

先ほどの目標数値で20代、30代が食育に関心を持つ割合が低いとのことですが、主な取り組みを見ると、こども園、離乳食など、お子さん向けのものが多いと感じました。

今回の食育推進計画の方向性も、小中学校、妊産婦などに向けたものが多いと感じます。

20、30代は子供を持たない世代が多いので、食育に関心を持つ目標が悪化するのでは、当たり前かなと感じました。

子供を持たない20、30代の人にも、食育を推進していかななくてはならないと思いますので、そこに向けてどう取り組んでいくのかも、考えていただきたいと思いました。

議長

それでは次に進めさせていただきます。(3)第4次静岡市食育推進計画策定スケジュール(案)について事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、資料4をご覧ください。

(3)第4次静岡市食育推進計画策定スケジュール(案)

一枚目は令和5年度の第4次静岡市食育推進計画、策定スケジュール案を作成しました。令和5年度は3回開催予定です。市民の皆様のご意見も踏まえて、計画の素案を作成します。

資料4の二枚目をご覧ください。黄色の部分となりますが、令和6年度より開始し、令和12年度までの7年間の計画を予定しております。

令和8年度に一度、見直しを行いたいと考えております。通常、食育推進計画は5年間の計画で進めてきましたが、静岡市総合計画と、国の食育推進基本計画との整合性も図りたいと考え、期間を7年間として進めてまいりたいと思います。

質問(3)第4次静岡市食育推進計画策定スケジュール(案)

議長

それでは、ただいまの説明につきまして、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いいたします。

坪井委員

日本は少子化が進んでおり、ベビーブームに生まれた子供たちの出産も終わろうとしています。そうすると、これから急激に少子化が進むわけです。こういった計画も、長期5年、7年ですと人口母体が非常に関わってくると思います。

日本は親子で住む習慣が未だに根強く残っています。アメリカやヨーロッパは、早く独立しろといいます。早く独立するということは自分で食べていくということです。いつまでも親が子供の面倒をみているような人が多い日本は、結婚する、子供を産むという人達が減ってきているように感じます。

そういった、進みゆく現状を頭に入れて計画を立てないと、絵にかいた餅になってくると思います。今後の小学生、中学生の数、それに対しての計画をどのように当てはめていくか、検討のなかに入れてほしいです。

事務局

ご意見ありがとうございました。計画の期間については市の総合計画の策定に合わせることで新しい事業も入れやすいと思いますし、各調査についてデータをとりやすくなる時期になってくると思いますので、坪井委員のご意見も踏まえ、計画策定に取り入れていこうと思います。

議長

大変貴重なご意見をいただきましたので、事務局で検討していただき、今後の食の取り組みに活かしていただけたらと思います。

以上で本日の議事は終了いたします。

司会

桑野会長、委員の皆様方、長時間にわたりご審議いただきまして、ありがとうございました。

次年度は第4次静岡市食育推進計画の策定を行います。委員の皆様からのご意見を踏まえてすすめてまいりたいと思いますので、今後とも静岡市食育推進計画の推進に、ご協力いただきますよう、お願いいたします。

続きまして、次第3のその他となりますが、本日、ご出席いただいております、関東農政局、消費安全部、消費生活課長、小林委員より、みどりの食料システム戦略について、また、食料、農業、農村基本法の見直しについてご説明をお願いしたいと思います。

(4)みどりの食料システム戦略

小林委員

“みどりの食料システム戦略”について説明

※ZOOMの通信が中断し、本会議中に通信が復旧しなかったため、次回、食育推進会議で説明をいただく予定。

(5)しずおかカラダに eat75 事業

「毎日元気 de おはようレシピ」のリーフレットをご覧ください。第1回食育推進会議においても皆さまにご意見をいただいたものとなりますが、1月に完成いたしました。

今年度、インスタグラムでレシピ募集をし、50件ほど集まりましたので、清水桜が丘高校にご協力いただき、実際に高校生にそのレシピを作っていただきました。好評だったものを中心に掲載しております。

年度末までには、市内高校2年生を対象に配布したいと考えております。また今年度は、当課で実施しております「しずおかカラダに eat75 事業」において、高校生を対象とした食育啓発用まんがやポスターも作成しております。食育啓発用まんがは、朝食の重要性、簡単レシピの紹介、また女性のやせについてが主な内容となっております。

女性のやせが妊娠期に及ぼす影響等の内容については、依藤委員にも一部ご協力をいただくこととなりまして、お忙しい中、本当にありがとうございます。

まんがはリーフレットと同様に、高校2年生へ配布します。また、HP等にも掲載していく予定ですので、若い世代を中心に広く周知していけるように関係課、関係団体様へも発信していきます。

質問(5)しずおかカラダに eat75 事業

事務局

ただいまの事務局からの説明について、ご意見、ご質問のあるかたはいらっしゃいますか？

意見無し

閉会の挨拶

司会

それでは、委員の皆様、大変お忙しい中、本日の会議にご出席いただきまして、ありがとうございました。

皆様の任期についてですが、令和5年5月31日までとなっております。任期中、何かとご指導ご助言いただきありがとうございました。

任期満了に伴う新たな委員の推薦については、各団体に、後日文書を送付させていただく予定ですので、よろしくお願い致します。

なお、令和5年度は、3回の会議を予定しておりますが、詳細な日程につきましては、決定次第、お知らせ致します。

今後も引き続き、静岡市の食育推進事業にご理解、ご協力の程よろしくお願い致します。

それでは以上をもちまして、令和4年度 第2回 静岡市食育推進会議を終了いたします。